

SGH 通信 STONE SOUP

Mishima-Kita High School SGH Newsletter

October 31, 2018 No. 9

SGH 最終年度のベトナム研修

8月20日～24日の5日間、ベトナム・ハノイ市で現地研修が実施された。今回の研修は、これまでの交流実績を活かし、一層充実した内容の研修であった。新年度開始直後の多忙な時期にも関わらず、プレゼン交流等で温かく受け入れていただいた Chu Van An 高校。大学での講義や大規模治水施設の建設現場視察等、親身になって研修メニューを組んでいただいた水資源大学の Don 教授。相互信頼と交流実績があるからこそ、このように多大な協力が得られる状況にまで到達できた。その他、JETRO ハノイ事務所訪問、水上人形劇鑑賞等、生徒の知的好奇心を刺激する大変効果的な内容であった。これらの実績を未来にどうつなげていくか。指定最終年度にあたり、本校における海外研修の在り方を改めて検討する時期がきている。(副校長・高橋健二)

現地でしかできない経験から学ぶ

5 日間で行われたベトナム研修で私は多くの貴重な体験をすることができました。そのひとつが、現地の高校で行ったプレゼンテーションです。現地の生徒もプレゼンをしてくれたので、ベトナムの高校生の水問題に対する考えを知ることができました。これからの自分たちの研究に活かしていきたいです。また、ベトナムの高校の雰囲気や学食も楽しめましたし、多くの異文化を体験しました。さらに、ハノイ市内を散策することで、実際に現地に行ってみないと分からない人びとの生活や文化をより身近に感じることができました。これらの貴重な経験をしっかり事後研修に反映させていきたいです。(1年・霜出夏希)



LWI フィールドワーク -楽寿園でのプレゼンとラジオ出演-

「地下水を増やして小浜池の水を取り戻す」をテーマに夏休みのフィールドワークを行いました。私たちは、小浜池がある楽寿園でプレゼンテーションをして、聞いてくださった方へのアンケートで意識調査をしました。地域 FM 局 Voice Cue にも出演させていただき、研究内容を話すことができました。自分たちの言葉で市民の方々に情報を伝えるまでの過程は、大変なことが多かったです。しかし、たくさんの発見は活動の原動力になりました。ここで終わりにするのではなく、フィールドワークで得た気づきを新たなアクションにつなげていきたいです。(1年・萩原さら)



1. SGH 海外研修チームが外部ポスターセッションに参加

SGH 海外研修の受講生徒たちは、外部でのポスターセッションや研究発表に積極的に参加し、課題研究の成果を発表してきました。

(1) 4月 21、22 日、大阪大学大学院国際公共政策研究科が主催する「国際公共政策コンファレンス」に 3 年生 3 人が出場し、「持続可能な社会と『仮想水』」というテーマで、課題解決のためのあたらしい仕組みに関する研究発表を行いました。

●論文の書き方や長時間の発表の仕方を学び、自分の能力を高められました。データの示し方、話し方、論理立ての方法など、プレゼンの基礎から学べて、なおかつ準備も楽しくできました。当日は厳しい質問も多く飛んできて、あらためて勉強になりました。私たちが考えたアイデアを多くの人に伝えることができた実感しました。(3 年・二宮敏枝)

(2) 7月 21～24 日、アジア地域を中心とする世界各国の中高校生が科学や国際課題に関する考えや研究成果を英語で発表するコンテスト「Global Link Singapore」に 3 年生 2 人が参加しました。シンガポール国立大学をメイン会場にして開催されました。

●今まで思いつかなかったアイデアに巡り会うことができました。さまざまな国の生徒が見に来てくれたので、日本人が思いつかないような意見をたくさんもらえて非常にうれしかったです。かけがえのない友だちを作ることができました。(3 年・福間良美)

(3) 7月 26 日、渋谷教育学園幕張高等学校をメイン会場として開催された「Water is Life 2018」(世界高校生水会議)のポスターセッションに 2、3 年生 14 人がオーディエンスとして参加しました。国内だけでなく、外国からの参加チームの発表にも積極的に耳を傾けました。

●世界のレベルを知ることができました。私たちがこれから求められる能力はどのようなものかを改めて知り、考えさせられました。これを機にさらに何事にも邁進していきたいと強く感じました。(2 年・井草七海)

2. 水シンポジウムで研究発表

静岡県の水辺の魅力や水害リスクなどをテーマとした「第 23 回水シンポジウム 2018 in ふじのくに沼津」が 8 月 23、24 日、沼津市で開催され、初日の分科会で 2 年生 9 人が昨年度に取り組んだ地域の水課題について発表しました。

●「水」という同じものに対して、さまざまな分野の専門家が、それぞれのアプローチの仕方でも意見交換をしているのが非常に興味深かったです。互いの主張、研究していることを組み合わせて、さらに良いアイデアを考えていたところが新鮮でした。(2 年・柿沼千尋)

3. トビタテ！留学 JAPAN で国際ボランティア

「トビタテ！留学 JAPAN」4 期生に選ばれた生徒が、フィリピンで国際ボランティアを経験しました。

●8 月 2～22 日、フィリピンのセブ島で活動しました。この活動に参加したことで、自分の中の固定概念が崩れ、多くの新しい発見がありました。たくさん学び、貴重な経験ができました。また参加したいと思います。(2 年・山下愛莉)

4. エンパワメントプログラムを開催

8 月 6～10 日、米国などのトップ大学の学生や留学生たちがファシリテーターを務めるエンパワメントプログラムを開催。本校生徒とともに近隣 2 校からの参加者もいました。英語でポジティブ・シンキングの重要性を学び、多様な課題について議論しました。

●初日は緊張したけど、2 日目からはみんな友達になれて、毎朝教室に行くのがとても楽しみになるくらい楽しむことができました。グローバルリーダーとも話す時間がたくさんあって、内容の濃い 1 週間でした。(1 年・小谷千智)

5. LWI と GWI で水の専門家とセッション、LWI では学生等の支援も

SGH 学校設定科目の LWI と GWI では、9 月 19、27、28 日、各チームの課題研究について、水の専門家とセッションを行いました。生徒は夏休みに実施したフィールドワーク (FW) や実験について説明し、専門家からは今後取り組むべき課題について助言をいただきました。協力くださった企業・団体は次のとおりです (順不同)。アクアスフィア水教育研究所、(特非) 雨水市民の会、関東 ESD センター、国土交通省沼津河川国道事務所、八千代エンジニアリング(株)、(独) JICA、(特非) WaterAid Japan、栗田工業(株)、東レ(株)。10 月 3 日には、卒業生を含む 8 人の大学生に LWI の課題研究についてアドバイスをいただきました。

●課題設定を一からやり直すことになって悩んでいたのも、どんな情報が必要か、それを見つけるためのヒントは何か、という観点で専門家に指導いただきました。これからの GWI ではそのヒントをもとに研究していきたいです。(2 年・東保あかね)

●(支援の学生に) 発表を聞いてもらい、具体的にすべきポイントについてアドバイスをもらいました。FW の計画でも相談に乗ってもらいたかったです。指摘された箇所を改善して、よりわかりやすいプレゼンに仕上げたいです。(1 年・飯田花摘、若林那奈)